…服アリテ出訴
…二十二號布告ニ
三條實美
山縣有朋
…入リ或ハ海軍監
軍一般
…出帆ノ節ハ當
…得尤出帆前ニ
…者ノ姓名及ヒ
…ス
川村純義
…笠原島ヲ除ク）
…定ス
須要ノ學科ヲ
…トス
…トス但祀業時
…スヘシ
月三十日
…分日
月十七日
一月廿三日
…至ル）
範學校ノ規則
管理法及体操
範學科中生理
コトアルヘシ
等ハ東京府師
所ニ届出ヘシ
キハ其事由ヲ
正代理
銀林綱男
事務委員
之通相定候爲
正代理
銀林綱男
ニ屬シ同校教
理法等須要ノ
ナル事件ハ都
監督スル事
習員ノ勤怠表
ヘ
講習又ハ巡視
廳ニ上申スヘ

敍任

○明治十七年五月卅一日

任歩兵少佐	歩兵大尉正七位勳五等	安田宗直
同	同同同	大久保利貞
同	同同	三上晋太郎
同	同同同	渡邊勝重
任砲兵少佐	砲兵大尉正七位勳五等	福田繩之
任歩兵大尉	歩兵中尉從七位勳六等	藏田直寛
同	同同	森氏男
同	同同	松田忠之
同	同同	神戸守正
同	同同勳六等	別府忠純
同	同同	澄田定興
同	同同勳六等	佐々木透
同	同同勳六等	林光隆
同	同同	宮部賤夫
同	同正七位	栗屋信純
任砲兵大尉	砲兵中尉從七位	谷田榮壽
同	同同	鈴木長三郎
同	同同	村上慧
任歩兵中尉	歩兵少尉正八位	伊藤益見
同	同同	松木正保
同	同同	齋林敏正
同	同同	俵田八百之助
同	同同勳六等	喜志潜藏
同	同同	清水鍬三郎
同	同同	神力之進
同	同同	石黒重濺
同	同同	三宅六郎
同	同同	加藤永之

時事新報

支那帝國海軍ノ將來如何（前號ノ續）

我時事新報ノ讀者諸君ハ本紙上ニ於テ先ニ支那ノ通政使呉大澂ガ會辨北洋事宜ニ內閣學士陳寶琛ガ會辨南洋事宜ニ翰林院ノ學士張佩綸ガ會辨福建海疆事宜ニ孰レモ拜任シタル由ヲ記臆セラルヽコトナラン南北兩洋ノ事宜ヲ會辨スト云フハ如何ナル役目ナルカ之ヲ明言スルニ由無ケレ𪜈聞ク所ニ如クナレハ一ハ北洋大臣李鴻章ヲ一ハ南洋大臣左宗棠ヲ夫々補助シテ與ニ海防ノ事務ヲ議スル者ナリト云ヒ福建ノ海疆事宜ナル者モ同ク福建省沿海ノ防禦ニ關ル重職ナリト云ヘリ而シテ其任命ハ孰レモ天津媾和以後ニ在ルヲ見レハ支那政府ガ頓ニ思立テ沿岸諸省ノ防禦ヲ急ニセント欲スルノ意見以テ窺ヒ知ルベシ且ツ張佩綸ハ沿海七省ニ兵船水師ヲ設ケ重臣ニ欽命シテ經畫スルニ一事權ヲ以テスベシトノ上疏ヲ奉リタルニ上諭ニテ其奏請ヲ嘉納シ李鴻章及ビ曾國荃（署理南洋大臣）ニ命シテ會議ノ上其意見ヲ申述ベシトノ勅諚アリシ由ナリ願フニ今ノ支那政府中先ツ海外ノ事情ニ通ストテ云ハルヽハ天津ノ李鴻章ニシテ氏ノ意見ニテハ海防ノコハ全力ヲ一ニシテ要害ヲ扼スベク諸方ヲ手分ケシテ思ヒ〳〵ニ散漫ナル防禦ヲ爲スハ尤モ戒ムベキ者ナリト聞ケリ先ニ載淳同治帝ノ時ニ丁日昌ナル人北東南ノ三洋ニ水師提督ヲ分置スベシト建議シタルニ左宗棠ハ海防ノコハ水上ニ軍艦ヲ浮ベテ東西相應スベキガ故ニ其號令ヲ一ニシテ外敵ヲ防グ𪜈ハ首尾相救フテ常山ノ蛇ノ如クナルヲ得ベシト雖𪜈若シ分テ之ヲ守ル𪜈ハ却テ撞突相違ノ憂アルベシトテ李鴻章ト與ニ丁氏ノ説ニ異議ヲ容レタリト云ヘリ次ニ曾國荃ガ支那海軍ニ就テ如何ナル意見ヲ抱持スルカハ余輩ノ知ル能ハザル所ナレ𪜈又必ズ李鴻章左宗棠等ト大体其意見ヲ與ニスルコ勿論ナランカ左レハ李曾ノ二老將ガ今度勅諚ニ依テ沿海防禦ノ取調ベヲ命セラレシ以上ハ今ノ支那帝國海軍ノ果シテ、恃ムニ足ル可ラザルヲ觀察シ張佩綸ノ奏ノ如クニ海軍號令ノ全權ヲ一手ニ歸シテ沿海七省ノ兵備ヲ整ンニシ軍艦ヲ泊スベキ所ニハ之ヲ泊サシメ砲臺ヲ設クベキ所ニハ之ヲ設ケ或ハ水雷火ヲ据エ或ハ暗礁ヲ測定シ海軍ノ士官將校ヲ訓養シテ器械、運轉大砲ノ發射ニ熟達セシメ又ハ「クルツプ」砲若クハ「アームストロング」砲ヲ購ヒ但シハ軍艦兵器ヲ遣作注文シ沿海七省ノ一帶ニハ全權ノ海軍兵若クハ才能提督一人ノ號令ヲ以テ之ガ防禦ヲ張ラバ三五年ニシテ支那沿岸ノ海軍ハ以テ自守ルニ充分ナルベシ內ニ既ニ充分ナルニ至ラバ次テ其威光ヲ海外ニ耀カサントスルハ各國國民ノ常ナルガ故ニ今日恐ル可ラザルノ支那人民ト云ヘ三五年後ニハ堂々タル武力ヲ振テ傲然傍人ヲ侵凌スルヤモ測リ難シ虎狼ノ子、蛇蝎ノ卵決シテ侮ル可ラズ長スレハ則チ人ヲ噬ム況テ四億餘萬ノ民九十萬方里ノ國量ニ復タ恐レサルヲ得ンヤ但シ今回支那ニ於テ海軍ヲ振起セントスルノ議論ハ唯一ノ重臣ニ海防ノ全權ヲ授テ權宜ニ經畫スベシト云フニ止マリテ一個獨立ノ海軍省ヲ設ケテ陸軍ト對峙シ海軍卿ニ海防軍艦ノ全權ヲ授ケテ西洋ノ海軍ト全ク其式ヲ同ウスベシトノ議アルヲ聞カズト雖𪜈若シ其改革ニシテ能ク行ハレナバ支那ノ海軍ハ頓ニ面目ヲ一新シ今日ノ如キ曖昧無秩序ノ海軍ヨリモ遙カ數等ノ改良ヲ得ベキハ余輩ノ信シテ疑ハザル所ナリトス支那ノ海軍不完全ナガラモ今度ノ改革ヲ經ハ一步進ミ二步行テ次第ニ整頓ニ至ルハ勢ノ自然ニシテ支那帝國海軍ノ振作モ亦遠キニ非ザルベキナリ

諺ニ云ク盲蛇ニ畏ヂズト今日マデ支那帝國ガ其國ニ比例シテ恃ムベキ程ノ海軍モ無キニ偖且ツ傲然トシテ人ニ接シ屢々外國ニ迫ラレテ降伏シナガラモ頑然自カラ尊大ニ構ヘタルハ蛇ニ畏ヂヌ盲ノ類ナリシニ今ヤ支那國モ度々ナル經驗ヲ試ミ來リ最後東京ノ一戰ニ於テ最モ其肝膽ヲ冷サレタルガ故ニ始テ自國ノ兵力ノ强カラザルヲ悟リテ西洋諸國ヲ恐ルヽニ至リシハ蓋シ掩フ可ラザル事實ト云フベシ既ニ西洋諸國ヲ恐ルヽノ心アラハ獨リ往時ヲ追懷シテモ道光ノ昔シ阿片事件ヨリ英國ノ爲メニ廣東ヲ始メ江南諸省ヲ陷サレタルヲ記臆シ其敗北ハ何ニ由リシ歟ヲ悟ラン或ハ咸豐ノ昔シ英佛ノ爲メニ天津北京ヲ乘取ラレテ天子北ニ蒙塵、社稷棄テ、守ラザルヲ追想シ其恥辱ハ何ニ由リシ歟ヲ悟ラン又ハ近クシテ日本ノ台灣征伐、露國ノ伊犁葛崙等孰レモ皆今回安南事件ノ敗北ト與ニ結合シテ支那人民ニ自家兵力ノ薄弱ヲ感セシムルニ足ルノミナラズ現在、露國ハ支那ヨリ黑龍江一帶ノ地ヲ奪テ浦鹽斯德ニ據リ英國ハ香港ノ要害ヲ扼シ葡萄牙モ亦澳門ニ據守シ佛國ハ乃チ東京ヲ取リ國境雲南ニ進リ我日本國ガ沖縄縣ヲ置キタルガ如キモ支那人ニ取レハ其國土ヲ奪ハレタル者ト思考スルコトモアルベク現在、上海ノ支那新聞ガ其紙上ニ日本琉球ヲ據守シテ台灣ヲ窺フナド公然明記スルヲ見テモ支那人心ノ一斑ヲ知ルベシ而シテ西洋諸國ヲ見レハ軍艦ノ堅固ナル、大砲ノ精銳ナル皆今支那人ノ肝膽ヲ驚カスベキガ故ニ支那人ノ身ニテ往時ヲ追懷シ現勢ヲ視察シ且ツハ西洋ノ事情ヲ聞知セバ縱ヒ其眼ヲ閉ヂ耳ヲ塞キ神經ヲ鎮クセントスルモ豈ニ其ノ心ニ不安ノ思ナキヲ得ンヤ其心ニ不安ノ思アルハ則チ自强ヲ計ル所以ニシテ今回支那政府ガ其海軍ヲ改革シテ七省ノ防禦ヲ嚴ニセントスルハ蓋シ支那帝國海軍ノ將來輕侮ス可ラザルニ至ル第一ノ才歩ナラン　（未完）

雜報

○三品威仁親王　同宮の一行は去る一日午前四時神戸港港の磐城艦に乗組まれ紀州苫ケ島を經て淡路國由良湊砲台及同所より同國岩屋浦までの沿海巡覽の爲め出艦あらせられ翌二日中再び神戸へ歸港なふせられ更に御一泊の後比叡艦に乗組み四國沿海を巡視せらるゝ都合ありと

○山階宮　同宮には過日米國の汽車中にて微傷を負せられたる由を一寸其頃の紙上に記せしが其後直ちに全快にて去六日隨員一同歐洲へ向け紐育を出立せられしよし

○瑞龍寺尼宮　京都に住せられし瑞龍寺は住職元村雲尼公にて今度東京へ御轉住の爲め一昨三日出京されて取敢へず外戚なる從一位九條道孝君の邸に着せられ昨日は道孝君同伴にて青山御所へ參内の上皇太后宮より謁見仰付られ御前に於て酒饌を賜りたるよし

○貴婦人雅會　伏見宮の御息所を始め三條太政大臣の夫人其他貴顯方の婦女數十名は昨日午後二時より日枝神社の境内なる星ケ岡の茶寮に於て抹茶、挿花等の催しありて餘興に琵琶琴瑟の調べもありて寮の內外にて聽衆充滿せりと

○官廳彙報　一等主稅官市川正寧氏は去る一日御用にて京都大坂の二府及兵庫、和歌山、三重、愛知、富山、福井、石川、新潟、長野の九縣へ出張を命せられたり○曩に大坂鎮臺へ出張したる總務局次長兼同局軍法課長歩兵中佐眞岡信綱氏は御用濟にて去る二日歸京し、曩に小野濱造船所長に補せられたる海軍中佐磯邊包義氏は一昨三日出發赴任したり○曩に愛知、三重二縣へ出張したる三等主稅官横瀬文彦氏は去月卅日歸京し、大藏權少書記官乾澤之彌氏は去る一日非職仰付られたり○從五位松平乘承氏は一昨三日太政官にて御用掛（准奏任月俸三十五圓）仰付られ修史館勤務を命せられ○內務省准奏任御用掛後藤敬臣氏は去る二日同省にて內局第一課（在復掛長）兼第二課勤務仰付られたり○陸軍軍馬局附の騎兵大尉林道喜氏は軍馬購求の爲大下士官六名を隨へ本日出發して三陸地方へ出張ある都合なり

○伊藤傳吉氏　共同運輸會社長伊藤雋吉氏は過般製艦により米國へ差遣中滯在の末去月十四五日頃紐育を出立して歸朝する都合なりし由なれば多分近日歸着するならんと同社に